

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年4月2日

【評価実施概要】

事業所番号	0970700332		
法人名	医療法人 矢尾板記念会		
事業所名	グループホームかわせみ		
所在地	栃木県日光市平ヶ崎609-4 (電話) 0288-22-1221		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成22年2月25日	評価確定日	平成22年4月2日

【情報提供票より】 (平成22年1月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤7人 (うち兼務1人), 常勤換算7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリートRC造り 6階建ての2階部分		
------	---------------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	15,000 円	その他の経費 (月額)	・水道光熱費—10,000円 ・日用生活品費—158円/日 ・教養娯楽費—158円/日 ・おむつ代—実費, おむつ処理代—実費 (持込の場合)	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	450 円	昼食	550 円
	夕食	550 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (平成22年1月25日現在)

利用者人数	7 名	男性	1 名	女性	6 名	
要介護1		名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名		要介護4	3 名		
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	88.7 歳	最低	83 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	見龍堂クリニックかわせみ
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは同法人のクリニックの2階部分に開設されたホームであり、上の階が病棟でもあることから医療との連携体制が構築されており、入居者及び家族の安心に繋がっている。周辺には山林が広がり、見晴らしも良く常に季節感を感じることが出来る場所に位置している。建物の構造上、外部からの出入りがやや困難なところもあるが、個別の要望に応じた外出支援や地域の行事や併設の介護老人保健施設の納涼祭等で地域住民との交流を図るなど、常に閉塞感のない暮らしの支援に努めている。また、運営推進会議を積極的に活用し、話し合われた結果等を運営やサービスの向上に繋げている。管理者と各職員のチームワークも良く、家庭的な雰囲気を大切にして入居者に向き合っている姿勢が伺われるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)	外部評価の結果は運営推進会議で報告をしている他、全職員に評価結果報告書と改善シートを配り、職員ミーティングで話合う等、改善に向けた取り組みに活かしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)	今回の自己評価も全職員が各々に作成したものを管理者がまとめあげて作成している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)	運営推進会議は、家族代表、地域住民代表、消防団長、市担当職員、地域包括支援センター職員がメンバーとなり、2ヶ月に1度開催をしている。会議では入居者の状況や行事等の報告、外部評価結果の報告や取り組み状況の説明等を行っている。委員からは意見や助言、地域情報を提供してもらう等、活発な意見交換の場となっており、ホームでの日々の支援に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)	玄関に意見箱を設置している他、重要事項説明書にホームの苦情受付担当者や外部の苦情受付機関を明記しており、入居時等に家族へ説明している。昨年度は家族アンケートを実施し、集計結果を全家族に送付している他、運営推進会議でも報告をする等、家族からの意見や要望等を運営に反映させている。
重点項目③	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)	ホームでは入居者と共にお祭り、どんど焼き、そば打ち等の地域の行事に積極的に参加して地域住民との交流に努めている。また、運営推進会議等を通じて自治会や地域住民からのホームへの理解が深まり、様々な情報提供や協力体制が構築されてきている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員の話し合いにより、「相手を敬い、生きがいと安心のある普通の生活。相互援助を通じ、その人を知ること」を追求。継続は力。」という独自の理念をつくりあげている。また、毎年「今年」の目標」として5つの行動基準も定めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念や今年の目標、取組み方針を職員の目に見えるところに掲示している他、毎朝の申し送りの時等に理念の唱和を行い、常に実践に活かせるよう職員全体での共有を図っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームでは入居者と共にお祭り、どんど焼き、そば打ち等の地域の行事に積極的に参加して地域住民との交流に努めている。また、運営推進会議等を通じて自治会や地域住民からのホームへの理解が深まり、様々な情報提供や協力体制が構築されてきている。	○	当ホームが同法人クリニックの2階にあることから、地域住民が気軽に立ち寄ったり、ホームの行事等に地域からの参加が難しいとのことであるが、入居者の生活の充実を図る意味でも、地域住民が来訪しやすいような工夫や環境作りに努める等、相互交流が図れるような取り組みに期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は運営推進会議で報告をしている他、全職員に評価結果報告書と改善シートを配り、職員ミーティングで話合う等、改善に向けた取り組みに活かしている。今回の自己評価も全職員が各々に作成したものを管理者がまとめあげて作成している。		

グループホームかわせみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族代表、地域住民代表、消防団長、市担当職員、地域包括支援センター職員がメンバーとなり、2ヶ月に1度開催をしている。会議では入居者の状況や行事等の報告、外部評価結果の報告や取り組み状況の説明等を行っている。委員からは意見や助言、地域情報を提供してもらう等、活発な意見交換の場となっており、ホームでの日々の支援に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には必ず市担当職員に出席してもらい、ホームの現状や課題等を理解してもらっている他、制度上の相談や提出書類を持参した際にも市担当職員と情報交換や助言をもらう等、市と連携してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への入居者の暮らしぶりや健康状態については、家族の来所時に口頭での報告や毎月、担当職員による手書きの近況報告書を個別に送付して報告に努めている。金銭の自己管理が困難な入居者には、立替金を用意し、使用した分を毎月の請求時に明細を添付し確認してもらっている。職員の異動等は都度、紹介をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している他、重要事項説明書にホームの苦情受付担当者や外部の苦情受付機関を明記しており、入居時等に家族へ説明している。昨年度は家族アンケートを実施し、集計結果を全家族に送付している他、運営推進会議でも報告をする等、家族からの意見や要望等を運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は馴染みの職員による継続的な支援の必要性を理解しており、異動は最小限に留めている。やむを得ず異動等がある場合は前任者がいるうちに時間をかけて引継ぎを行う等、入居者が新しい職員に違和感なく馴染んでもらえるよう工夫している。異動は隣接する同法人事業所であり、前任者にホームに寄ってもらう等、ダメージを最小限に抑える配慮もしている。		

グループホームかわせみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他事業所での実習、県や市等で開催される外部研修に参加する等、職員の段階に応じて様々な研修に参加している。研修参加後は、職員ミーティング時等に伝達を行い、知識の共有に努めている。また、隣接している同法人の介護老人保健施設で開催される勉強会にも参加している。他事業所職員や学生の実習受入れもあり、職員にも刺激となっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会へ加盟している。市内の他事業所とは職員の相互実習の実施や情報交換を兼ねた食事会にも積極的に参加し、そこで得た情報や支援の取り組みをサービスの質の向上に役立てている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたっては本人宅を訪問し、ホームでの暮らしぶりの説明や本人及び家族からの要望や不安な点の把握に努めている。また、入居前の見学や短時間の利用の他、体験入居も可能であり、ホームの雰囲気や他の入居者や職員と顔なじみになる等、安心した段階で入居できるよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と本人とが関わる時間を多くとりながら、日々の暮らしの中で悲しみ、喜びを共にするよう努めている。干し柿やしもつかれ等の季節の料理の作り方、お茶の入れ方、縫い物、昔の話など本人の得意とする事を教わる等、共に学び支えあう関係を築いている。		

グループホームかわせみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中から入居者一人ひとりの仕草や表情の他、個人記録の情報をもとに過去の暮らしぶりを調べたり、本人や家族との会話等を参考に一人ひとりの本当の思いや意向の把握に努めている。意思表示が困難な入居者にも上記の方法により本人本位に検討し、対応に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成にあたっては、本人・家族の希望を確認し、主治医等の関係者の意見や助言を参考にしうえて、職員間でのケース会議やミーティング等により話し合いを行い、利用者本位の介護計画作成に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは6ヶ月毎に行っているが、本人の状態に変化が見られれば医師や併設の介護老人保健施設のリハビリスタッフの指示も受けながら、状態に合うように随時見直しを行っている。入居間もない入居者には様子を見ながら当初は1ヶ月毎に行うようにしている。見直し後の介護計画も家族に説明を行い承諾をしてもらっている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ建物の中に法人の診療所と病棟があり、受診が必要な場合は職員が付き添い、直接主治医との情報交換がなされ、入居しながら的確な医療が受けられるよう柔軟な支援を行っている。また、隣接している同法人介護老人保健施設のリハビリスタッフの支援も活用しており、事業所の多機能性を活かした支援に取り組んでいる。		

グループホームかわせみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認をしているが、協力医療機関でもある同じ建物内の法人診療所にかかりつけ医を変更する入居者が多い。歯科等の診療科目が無い場合の受診の際は家族に付添いをお願いしているが、紹介状を出すなど適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期への対応は、本人や家族の希望を参考にしながらできる限り継続して入居できるよう支援に努めているが、継続的な医療行為が必要になった段階で家族、職員、医師との協議を重ね、ホームでの対応の限界点を見極めている。現時点では入居者の状態や家族の希望により入院や特養等の他施設に移る等の対応をしており、ホームでの看取りは今までに行われていない。医師の助言を参考に管理者と職員で話し合いながら対応方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の呼び方は苗字又は名前に「さん」をつけて呼んでいる。入居者一人ひとりの時や場所を考慮した対応に心がけ、プライドやプライバシーを損ねないように配慮している。個人情報の扱いは、入居時に交わした同意書に基づき対応している他、個人記録等は職員のデスクの下部に鍵を掛けるなどして保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでは一日の大まかな流れは決めているが、入居者に確認をしながら状況にあわせて自由がきくものになっている。入居者の重度化も少しずつ進んできており、起床や就寝時間、食事の時間等もその人のペースに合わせて支援している。		

グループホームかわせみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の出来る範囲で食材の買い物、食事の準備や後片付けを職員と共に行っている。きざみ食の必要場合は一度元の状態で提供し、見てもらってからきざむ等の配慮をしている。旬のものなどで季節感を味わってもらったり、外食を楽しむ工夫もしている。職員も入居者と一緒に同じ物を会話を楽しみながら食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回、午後3時過ぎから夕食前の時間帯で入浴を行っているが、入浴日以外でも希望者には入浴できるように支援している。好みの温度を把握して調節したり、入浴時間や順番等、本人のペースや希望にあわせて対応している。入浴に拒否傾向が強い人には、タイミングや声かけを工夫して入浴に導いている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付け、お盆拭き、洗濯物たたみ、おしぼり丸め等、入居者のできる範囲で役割を持ってもらっている。刺し子、習字、塗り絵、計算ドリル等を楽しみにしている入居者もいる他、趣味の雑誌の定期購読や材料等の必要なものを職員と買い物に出かける等、職員は入居者の趣味・趣向の把握に努め、楽しみ事や気晴らしの支援に繋げている。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、ドライブ等、入居者の希望を確認しながら日常的に外出の機会を設けるようにしている。家族の来所時に家族との散歩も促している。牧場や植物園、かぶき村等、遠出の外出も定期的実施している。また、市内の居酒屋で職員と共に食事会を行う等の外出も行っており、外出が楽しいものになる様、外出先の情報収集や工夫を重ねている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	当ホームは建物の2階部分に位置しており、ホームの事実上の玄関部であるエレベーターは入居者の安全を考慮し、暗証番号によるロックが掛けられている。入居者個々の外出希望を常に細かく把握して対応しており、閉塞感を感じることを無いように心がけている。	○	エレベーターのロックに関しては、入居者の外出希望をきめ細かく把握し、できるだけ不自由を感じることをないよう配慮しているが、地域密着型サービスの観点から、安全に配慮しつつも地域住民や家族等の外部からの来所者がスムーズにホームへの訪問が出来るような工夫を期待したい。

グループホームかわせみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	同一建物内の併設診療所との合同や隣接している同法人介護老人保健施設との連携により、年2回の消防訓練を実施している。運営推進会議には消防団長が登録メンバーとなっており、ホームで開催した内覧会では3名の消防団員が参加し、避難のアドバイスをしてもらおう等、入居者の安全・安心に取り組んでいる。	○	自治会からの理解や消防団とも密接な連携が図られているが、ホームの位置や建物の構造上から夜間時等、職員が少なくなる時間帯での事業所の対応の限界点を踏まえ、今後、火災や災害等の緊急事態時に地域からの協力が得られるよう、支援体制の構築や合同での防災訓練を実施する等の取り組みに期待したい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事は職員がメニューを考えてホームで調理しているが、3ヶ月に1度法人の管理栄養士に栄養バランス等をチェックしてもらっている。食事や水分の摂取量についてはチェック表を用いて、適切に摂取できるように支援している。体調変化や重度化にあわせ、補助栄養食品の導入もしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりの良い居間兼食堂に入る日差しはカーテンやすだれで調節して柔らかい明るさにしている。温度管理や換気も適切に行われており、適温であり不快な臭い等は感じられない。季節に合せた飾り物が飾られ、清掃も行き届いており入居者が居心地良く過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が居心地よく過ごせるよう、本人や家族に馴染みの品々の持ち込みを促しており、箆箆や椅子等の家具類や家族の写真や植物が持込まれており、入居者各々の個性が活かされた居室となっている。転倒しやすい人や車いす使用の人にはベッドの位置や家具類の置き方を工夫する等、危険なく過ごせるよう配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。